

キャンパス散策（法政大学）



教育の理念

法政大学は1880年に「東京法学社」として誕生しました。本学は、個人の「自由」と社会の「進歩」を目指した自由民権運動が高まる中、「進取の気象」をもって法律の運用を担い、社会を開く高度な法技術者を養成する目的で創設されました。以来130年余、本学は今日、「15学部」「14大学院研究科」「3 専門職大学院」を擁する総合大学に成長しました。もちろん、進取の精神により社会を開く建学の目的は、なお変わらず生きています。現代においても本学が使命とするのは、社会の進歩を担う積極的な精神力を持つ個人、つまりは「自立型人材」を育成することです。学生一人ひとりが自らにふさわしいキャリア形成を行っていけるよう、そのプロセスを全面的に後押しし、その結果として、自立的でリーダーシップを持ち、社会の進歩に資する人材を世に送り出すこと、これが本学の教育の理念・目的です。

特徴をもった3キャンパス体制



市ヶ谷キャンパス

本学は、市ヶ谷・多摩・小金井の3つのキャンパスから成り、それぞれ特徴をもった施設が配置されています。市ヶ谷キャンパスは、超高層「ボアソナード・タワー」をシンボルとする都心型キャンパス。多摩キャンパスは、四季の変化に彩られ、豊かな自然と調和し、機能的にゾーニングされた開放的なキャンパス。小金井キャンパスは、最先端科学と技術を学ぶ、インテリジェント・キャンパスとなっています。



多摩キャンパス



小金井キャンパス

教育支援



薩埵ホール（市ヶ谷キャンパス）



多摩図書館（多摩キャンパス）



学生食堂（市ヶ谷キャンパス）



グラウンド（多摩キャンパス）

本学では、建学からの理念、「自由と進歩」の精神にもとづき、自立的で社会の進歩に資する人材を世に送り出すことを目指しています。そのための支援として、法政大学では総合大学としてのメリットを十分に生かした数々のプログラムを用意し、人材の育成に力を入れています。また、2万7千人に及ぶ学生の学習支援施設の拡充にも力を入れています。市ヶ谷校地の薩埵ホール（約900名収容）では、さまざまな学術イベントが行われています。多摩校地では、広々とした図書館に最新のAV機器など設置し、多くの学生が集う場となっています。

特色ある課外活動支援

本学では、昔から学生が主体的に取り組むサークル活動が盛んでした。3キャンパス合わせて、約200サークルが大学の施設を利用して活動しています。各校地には、サークル活動を支援するため会議室・音楽練習室・暗室などの設備を設けています。現在、学生センターでは課外活動支援策の一環として、大学と学生とが協働して取り組む特徴的な2つの活動行っています。

1. Hosei PSC (ピア・サポートコミュニティ)

従来大学が行っていた学生支援活動に、学生の視点を取り込み、更にもっと学生が学生を支援する「ピア・サポート」を実践する場としてのピア・サポートコミュニティの構築を行っています。ここでは、従来から学生スタッフが企画・運営に加わった新生合宿やオープンキャンパスに留まらず、学生ならではの視点や活力を最大限活用した様々な取り組みが行われています。この取り組みは、2007年度の文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」にも採択されました。2009年度は96プログラムを実施し、約1万人の学生が参加しました。

この取り組みのもう一つの特徴は、かつて支援を受けた学生が、支援する側に転化するというサイクルを生み出すことです。その中で、他者の要



多目的施設 EGG DOME (多摩キャンパス)



多目的室 (市ヶ谷キャンパス)



茶道体験 (市ヶ谷キャンパス・和室)



夏休み流星観測会 (多摩キャンパス)

望や悩みを理解し、その解決のために自分と他者の能力をいかにつなぐかという「社会とのつながり」を意識させると同時に、実践的な活動を通じて「社会人基礎力」養成の場となることを期待しています。

2. サークルサポーター制度

市ヶ谷キャンパスだけでも、120を超えるサークルが活動しています。そのため、サークルが共有する施設では、サークル間の細かい調整が必要となってきます。そこで、学生サークルサポーターが、定期的に行われる「サークル代表者会議」「各施設に関する小会議」を通じてサークル間の意見調整を行っています。つまり、サークル関連施設の運営において学生サークルサポーターと学生センターが協働するコミュニティ形成が、ここでも進行中です。